

「家電製品アドバイザー」など資格制度推進

家電製品協会・認定センター

業界ボーダーレス化で受験者増加

家電製品協会の認定センター（西崎義信センター）長は、業界の基盤となる人材育成を、16年度に始めたスマートハウス普及促進人材育成が目的の「スマートマスター」の企画運営を行っている。表は「家電製品アドバイザー」と「家電製品エンジニア」の試験内容を示す。



西崎センター長

図は「スマートマスター」の資格に必要な知識を示している。全国統一認定試験は3月と9月に実施。近年の業界ボーダーレス化で家電業界を取り巻く関連産業からの受験者も増加している。

20年9月からCB

資格の区分	1.アドバイザー		2.エンジニア	
	1)AV情報家電	2)生活家電	1)AV情報家電	2)生活家電
試験科目	①商品知識・取扱 ②CS・関連法規(共通)	①商品知識・取扱	①基礎技術 ②応用技術	①基礎技術 ②応用技術

注)アドバイザー試験のCS・関連法規は両資格共通の試験補足)総合資格とは、アドバイザー、エンジニア共に上記資格区分1)、2)の両方を取ったものに付与される

スマートハウスの普及には三つの分野の連携が不可欠
IoT、AI、ロボットなどを含む

「スマートマスター」はスマートハウスに関する知識のプラットフォーム

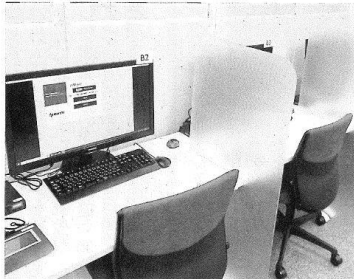
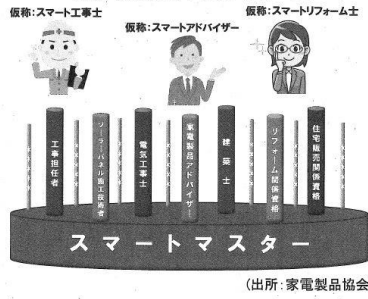
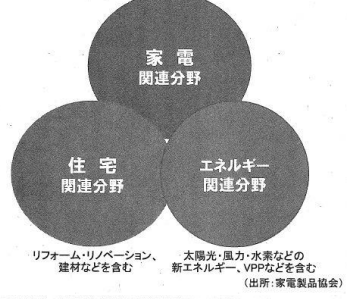


写真1 テストセンター内のPCブース

「スマートマスター」はスマートハウスに関する知識のプラットフォーム。試験会場では実施してき、CBT方式は、受験者の都合に合わせて受験地や受験日を選べる。試験官による口頭指示や会話は行われない。

写真1 試験会場では実施してき、CBT方式は、受験者の都合に合わせて受験地や受験日を選べる。試験官による口頭指示や会話は行われない。試験官による口頭指示や会話は行われない。

写真2 エグゼクティブ等級の認定証。200点満点でアドバイザー1700点以上、エンジニア1700点以上が合格ライン

写真3 新資格制度強化。温室効果ガスゼロ宣言。新型コロナウイルスによる生活環境の変化。DXトレンドなど、スマートハウスの課題がある。福元(こん)とんとした時代における住まいと暮らしのナビゲーターが、新時代のスマートマスターの姿になる」と新たに提言している。

試験は新時代に合わせたカリキュラムで、今年の春の試験は3月1日から14日に、CBT方式で行われる。受験申請は、2月11日22日。

新時代に合わせたスマートマスター制度をリキユラムは「スマートハウスに関する広範囲な専門知識を習得した人材に付与」される日本初の厳正な資格認定制度。家の構造的な問題、問題集「家電製品エンジニア」の21年版として発表されている。

いずれも技術進化や、横断的知識を理解取り巻く環境の変化に、横断的知識を消費合わせて毎年改定され、スマートハウス構築者必携の書と評価されている。書店や、認定証の資格」とし「自センターの公式サイトから購入できる。



写真2 エグゼクティブ等級の認定証。200点満点でアドバイザー1700点以上、エンジニア1700点以上が合格ライン

写真3 新資格制度強化。温室効果ガスゼロ宣言。新型コロナウイルスによる生活環境の変化。DXトレンドなど、スマートハウスの課題がある。福元(こん)とんとした時代における住まいと暮らしのナビゲーターが、新時代のスマートマスターの姿になる」と新たに提言している。